

眼科検査のあれこれ

～眼科コラム～

聖隷沼津病院 眼科検査室

屈折検査について

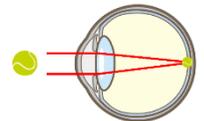
眼科で行われる「中の気球を見てください」と言われるあの検査
正式名称は「オートレフケラトメータ」といって、
眼の屈折状態(正視、近視、遠視、乱視)と角膜のカーブ具合を調べています。
視力検査の際、この値を参考にレンズを合わせています。



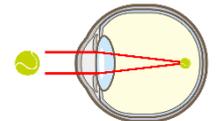
検査中に気球を見ていると、はっきり見えていた気球が急にぼやけてみえる事はありませんか？
中の気球を覗く事で無意識に『調節』という力が入ってしまいます。
その為、わざとぼやけた気球を見せることによって、『調節』という力を抜いた状態で測定を行っています。

正視・近視・遠視・乱視ってなに？

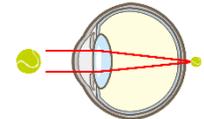
正視とは、光が網膜上に収束する為、物がはっきりと見える状態です。
遠くも近くも眼鏡を使わずに見ることができます。



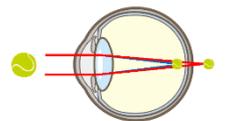
近視とは、網膜よりも手前で光が収束してしまうため物がはっきりと見えずぼけて見える状態です。
遠くを見るには眼鏡が必要ですが、近くは比較的眼鏡がなくても見ることができます。



遠視とは、光が網膜よりも後ろに収束するため物がはっきりと見えない状態となります。
遠くも近くもはっきり見るためには眼鏡が必要になります。
子供では調節力が強い為、遠視でも眼鏡を掛けずによく見ることができます。



乱視とは、光が1箇所ではなく異なる2箇所に収束するため、物が2重に見える状態です。
乱視の多くは角膜のゆがみによるもので、方向により角膜のカーブの強さが異なるため、
光が1箇所に結ばなくなります。



調節力ってなに？

調節力とは、眼のレンズ『水晶体』の厚さを変化させる事で、焦点を合わせることができる、いわばピント調節機能！
『水晶体』はやわらかく弾力性があり、遠くを見る際はレンズを薄く、近くを見る際はレンズを厚く、形を変える事により
自由にピントを合わせる事ができます。
この調節力が弱ってくると老眼の症状が現れてきます。

